



群馬県ユネスコ

ユネスコ群馬 No.73

群馬県ユネスコ連絡協議会

会長 小林照夫

事務局長 下田一成

事務局 群馬県教育委員会生涯学習課

つなげよう平和の心 広げようユネスコの輪



群馬県ユネスコ連絡協議会の発展を願って

会長 小林 照夫

ユネスコ協会会員の皆様、輝かしい新春を迎えられおめでとうございませう。今年もよりよき年でありませう。ご祈念を申し上げます。

今年度五月、太田ユ協のホストで県ユ連定期総会が開催されました。議題に役員改選があり、人選は各ユ協の代表者の選考委員会で選任し総会の議決によりまします。県内ユネスコ関係者には識見が豊富でユネスコに卓越した適任者が多くいらっしゃいますのに、私が会長に選任され、とてもとまどっております。私の信条は『くさび』であり、見えないところで力になりたいということ、とても会長の器ではありません。まして、来年度県ユ連創立五〇周年の大事業があり、大役を果たす自信はございません。しかし、選任されたからには県ユ連理事・役員、沼田ユ協の事務局のみなさんや会員皆様のご支援ご協力で任期を全う出来ればと考えています。宜しくお願い致します。

群馬県ユネスコ連絡協議会は、一九六七年(昭和四二年)創立し来年五〇周年を迎えます。創立期には大先輩たちが大変なご苦勞で発足され半世紀になります。県ユ連の一〇周年記念誌を拝読し先人

のユネスコの理念に基づいた情熱や知性・行動力等素晴らしい活動に感動しました。

そのなかで、一九七六年(昭和五一年)三月設立総会が行われた安中確氷ユネスコ協会の記念講演に湯浅八郎先生(昆虫学者、教育者、同志社大学総長、国際キリスト教大学初代総長)の講演の一部をご紹介します。

『戦争のない世界を実現することは、我々人間としての悲願であります。人間の理想であり、人間の悲願であるが故に、平和は容易に実現するものではありません。ユネスコ運動は、この困難を理解し、解決するために国際連合に関連して特に設立されたものです。もちろん、ユネスコ運動を展開すれば、直ちに平和が実現するというものではないのです。人間として住みよい社会を作っていく。そして、人間関係を通じ、我々の理想である平和、人間の悲願である戦争のない社会の創造に向かって進んでいきたい』と述べられています。私は、この湯浅先生の講演は、多くの人達に感銘をあたえたことと思います。

さて、現代の課題は、ユネスコ憲章の理念『戦争は二度と起こさない。』

明日の平和を次世代に伝え・広めていく。』ために、人口減少問題などで地域社会に多様な影響が現れていると思われまます。教育・科学・文化の維持と、さらなる発展を願うしだいです。

県内各ユネスコ協会では、それに伴う事業を様々に展開しております。その中での今日的課題は、私はユネスコスクールや持続可能な開発のための教育「ESD」の普及・拡大ではないかと考えます。

ユネスコスクールは、幼・小・中・高・大・高等教育機関等文部科学省から教育機関へ発信され、ユネスコ憲章の理念を学校の現場で実現するため、国際理解教育の実践的な試みを比較研究し、その調整を図る共同体です。二〇一五年(平成二七年)現在、全国九一三校がこのネットワークに参加しております。群馬県内でも小・中・高の多数の学校が参加し活動を続けておりますが、県ユ協としても、今後ともグローバルな人材を育成し持続可能な開発を実現するため、ESDの推進にとめていきたいと思えます。

群馬県ユネスコ連絡協議会のさらなる発展には、各ユネスコ協会が連携協力し、地域の人たちが笑顔でお互いに手をつなぎあい、幸せな生活を送ることが大切と考えます。

今後とも、オール群馬での、あたたかいご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



新年のごあいさつ

群馬県教育委員会教育長 笠原 寛

明けましておめでとうございます。

群馬県ユネスコ連絡協議会の皆様におかれましては、晴れやかな新年をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。また、日ごろよりユネスコ憲章の精神に基づき、世界の人々との友情と連帯心を育て、共に生きる平和な社会の実現に向け様々な活動に取り組みられていることに、心から敬意を表します。

本年、二〇一七年は群馬県ユネスコ連絡協議会が発足して五〇周年にあたる年と伺っております。一九六七年以来、長期間にわたり活発な活動が継続されてきた陰には、各地域のユネスコ協会それぞれの活動や連携の積み重ねがあり、その道のりにはたいへんな御苦労があったことと存じます。今後、さらなる発展を目指し、その崇高な理念を伝えていただきたいと感じております。

そのような記念すべき年に期待が高まるのが、上野三碑の「世界の記憶(世界記憶遺産)」登録ではないでしょうか。

県としても「上野三碑」の持つ世界的価値を広く発信していくことが重要であると考え、今年度は県内九か所

講演会を開催し、またリーフレットやポスターによる周知などの啓発活動を行っております。

県ユネスコ連絡協議会におかれましても、昨年は上野三碑をテーマに研修会を開催され、会員の皆様の中にも登録に向けて御尽力されている方も多数おられます。県教育委員会といたしましても、今後とも、皆様と連携して取組を推進していきたいと考えております。

さて、県では、昨年四月から教育委員会も含めた県政運営全体の羅針盤となる新たな総合計画「第十五次群馬県総合計画―はばたけ群馬プランII―」がスタートしました。基本目標の一番目は「地域を支え、経済・社会活動を支える人づくり」であります。その中でも「群馬の未来を担う子ども・若者の育成」を最重要政策の一つとして位置付け、その取組を全庁で推進しております。

群馬県の未来創生は、子ども・若者が担っていくこととなります。そのためには、無限の可能性を持っている子どもたちが、郷土への誇りと愛着を持って、たくましく生きる力を備えた人に育ってもらえるよう、地域の方々と

の一層の連携を図り、人づくりを進めていくことが重要です。

群馬の全ての子どもたちが成長し、それぞれが活躍する未来は、人口減少社会にあっても「魅力あふれる群馬」であると思います。

また、同じく昨年四月には家庭教育応援条例が施行されました。いつの時代でも、子どもを大切に育てることは家庭の責務ですが、その家庭を取り巻く環境は、家族形態の多様化、地域とのつながりの希薄化、経済格差等、大きく変化しています。

また、子育てに不安や問題を抱え孤立化する保護者も増加しており、その結果、過保護や過干渉、放任や虐待など、家庭の教育力の低下が指摘されているところでもあります。

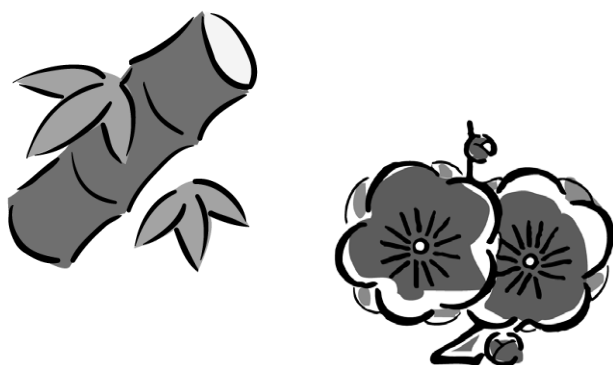
この条例では、群馬の子どもたちが健やかに成長するよう、各家庭の自主性を尊重しつつ、学校や地域住民、地域活動団体、事業者、行政などの関係者が連携して、社会全体で家庭教育を応援していくこととしています。

県ユネスコ連絡協議会や各地域のユネスコ協会で実施されている青少年を対象とした事業につきましては、「国際理解パス」「ユネスコスクール」「異文化理解・国際交流」などがあげられますが、子どもの時に様々な人や多様な文化に接する体験は、社会性を身に付け、社会の一員としての自覚を高めることができる貴重な機会であり、大変意義のある取組だと感じております。

す。

是非、県内各地にいらっしやる一八〇〇人の各ユネスコ協会会員の皆様方には、今後このような事業を発展させ、家庭教育の応援にも一緒に取り組んでいただきたいと思います。

結びに、十一月の五〇周年記念大会に向けて、既に着実に準備を進められているところであると思いますが、大会の成功と皆様方の御健勝・御活躍、また群馬県ユネスコ連絡協議会の御発展を御祈念申し上げます、新年の御挨拶とさせていただきます。



県ユ連定期総会開催される

県ユ連事務局次長 大島 俊夫

平成二十八年度本部役員

会長 小林 照夫 (沼田)

副会長 樋口 克己 (前橋)

北川 紘一郎 (桐生)

岸 正博 (藤岡)

阿久澤 和夫 (前橋)

事務局次長 下田 一成 (沼田)

事務局員 (沼田) 大島俊夫、石田宇平

宇敷和也、福田公代、森田経代

平成二十八年度の群馬県ユネスコ連絡協議会総会は、太田ユネスコ協会がホストになり、平成二十八年五月七日、太田市社会教育総合センターにおいて開催されました。

午後二時より北川紘一郎氏の開会のことばに続き、ユネスコの歌「手に手をとって」を全員で斉唱した後、県ユ連会長で太田ユ協会長の関口実氏より主催者挨拶、続いて県教委生涯学習課長下田明英氏、太田市教育長瀧澤啓史氏より祝辞をいただきました。議長には北川氏が選出され、まず、会長の改選に入り、推薦委員会の下田一成氏の報告に基づき、沼田ユネスコ協会会長の小林照夫氏が満場一致で第十二代会長に選出され、続いて、平成二十七年事業報告並びに決算報告、監査報告がされ、承認されました。

次に、平成二十八年度本部役員、事務局員人事案、事業計画案、予算案が審議され、承認されました。

議事終了後、前会長関口さんと前事務局長若田部さんに、小林新会長から感謝状の贈呈がありました。



県ユ連創立五十周年記念大会に向けて

創立五十周年記念事業実行委員長 樋口 克己

一九六七年に創立された群馬県ユネスコ連絡協議会は、二〇一七年に創立五十周年を迎えます。そこで、本協議会の活動の歴史をふりかえり、時代や社会の変化に対応したニーズを踏まえ、現行の諸事業や取り組みの方向性を確かめるため、記念事業に取り組み、本年十一月二十六日に記念式典を挙りたいと考えています。

五十周年記念大会の概要

大会会長	小林 照夫
委員会	樋口 克己
副委員長	北川 紘一郎
岸 正博	阿久澤 和夫
小委員	下田 一成 岡部 幹夫
三浦 芳夫	松本千恵子

○テーマ「つなげよう ひろげよう 平和の心 ぐんま」

○記念式典の挙行

二〇一七年十一月二十六日(日)

午後一時三十分より

高崎ビューホテルにて

○祝賀会の開催

二〇一七年十一月二十六日(日)

午後五時十分より

高崎ビューホテルにて

○記念誌の刊行

二〇一七年度末 発行予定

以上が記念大会の概要ですが、「つなげよう ひろげよう平和の心 ぐんま」をテーマにオール群馬の態勢で記念事業に取り組み、本協議会の組織や運営の活性化と各ユ協間の連携を深めたいと思います。併せて、この記念大会が広く県民にユネスコ活動についてPRする機会になれば幸いですと考えています。

関係各位やユネスコ協会会員の皆様には後日、記念式典や祝賀会のご案内をいたします。

なお、記念事業を成功させるためには皆様のご理解とご協力を仰がなくてはなりません。その節はよろしくお願ひ申し上げます。

利根実業高校がESD大賞

審査員特別賞を受賞

十二月三日、文部科学省主催の日本ユネスコスクール全国大会が、利根実業高校がNPO法人日本持続発展推進フォーラム主催の第七回ESD大賞審査員特別賞を受賞されました。日頃のユネスコスクールの活動が認められたものです。



前会長関口実さんが

功労者表彰受賞

十一月十日の県社会教育委員研究大会において、前会長の関口実さんが、ユネスコ活動など社会教育に多大な貢献があったということで「平成二十八年度社会教育功労者群馬県教育委員会表彰」を受賞されました。おめでとうございます。ありがとうございました。



平成28年度 群馬県ユネスコ連絡協議会 事業内容

事業名	期 日	会 場	ホストユ協
定期総会	5月7日 (土)	太田市社会教育総合センター	太田ユ協
運営研修兼事務局員研修		休止	富岡ユ協
ユネスコ研修視察	10月5日 (水)	吉井公民館等	高崎ユ協
海外青年交歓研修会	12月11日 (日)	藤岡市総合学習センター	藤岡地方ユ協
国際理解バス	各ユ協	東京JICA・JICA筑波等	各ユ協
世界遺産委員会	随時		委員会
ユネスコスクール	12月21日 (水)	藤岡市藤岡公民館	委員会
「ユネスコ群馬」73号発行	1月31日 (火)		事務局
定例理事会	年6回開催		県ユ連
役員会	随時開催		県ユ連
日本ユネスコ協会連盟総会		東京都	日ユ協連
日本ユネスコ運動全国大会	6月25日～26日	沖縄県	沖縄県ユ協
関東ブロックユネスコ活動研究会	9月3日 (土)	渋谷区	東京都ユ連
50周年記念事業実行委員会	随時開催		実行委員会

平成28年度 群馬県ユネスコ連絡協議会予算

科 目	予算額	摘 要
繰越金	49,133	前年度からの繰越金
会費	514,000	4万円×12ユ協 ソロプチミスト1万円 会場使用料2千円×12ユ協
事業収入	400,000	新聞代2万円×12ユ協 名刺交換2千円×12ユ協 80名
補助金	90,000	群馬県9万円
雑収入	1,000	預金利子等
合計	1,054,133	

科 目	予算額	摘 要
会議費	30,000	理事会・役員会等会議費
旅費	60,000	各種交通費
通信費	30,000	事務用連絡用はがき・切手代
印刷費	10,000	コピー代
消耗品費	30,000	事務用品費
事業費	617,000	
新聞発行費	189,000	ユネスコ群馬発行73号
単ユ協助成金	156,000	13千円×12ユ協
県ユ協連総会	40,000	太田ユ協
海外青年交歓研修会	50,000	安中碓氷ユ協
研修視察	50,000	高崎ユ協
世界遺産委員会	20,000	
国際理解バス	12,000	各ユ協
運営研修会	50,000	富岡ユ協
ユネスコスクール	50,000	委員会
文化活動補助費	24,000	
構成員負担金	9,600	日ユ協負担金等、教育振興会
周年行事積立金	210,000	関ブロ研究会13万円 50周年事業5万円
慶弔費	10,000	
予備費	23,533	
合計	1,054,133	



各ユネスコ協会だより

前橋ユネスコ協会

第29回国際理解バス研修会

理事 高島美幸

八月十九日(金)雨降る中、研修会が始まりました。前橋市役所を出て、練馬インターまで順調でした。バスの中で、生涯学習課の萩原さんより日程の説明、阿久澤会長の挨拶、生徒・スタッフの自己紹介がありました。朝早いためか生徒の心の扉はまだ開かないようでした。都内に入ると渋滞でした。

予定時間を遅れて、JICA地球広場に到着。地球案内人の佐藤さんのワークから始まりました。生徒が緊張しているのでサンマ、三つの間「時間」「空間」「仲間」をテーマにレクリエーションが行われました。その後、佐藤さんが二日間生活した「バンングラデシユ人民共和国」の体験を写真を通して話されました。初めて目にする発展途上国の生活の様子を真剣に聞いていました。緊張感もほぐれて、体験ゾーンの見学は自由に過ごせました。そして、一番楽しみにしていた昼食は、「エスニックビュッフェ」でした。食を通して異文化に触れることができました。次に、バスに乗りEJU大使館に行きました。

伊勢崎ユネスコ協会

伊勢崎ユ協の主な活動は、一、総会に合わせた春の研修会、二、市子ども会育成会との共催による夏休み子ども作品展、三、秋の研修会、四、書き損じはがき回収キャンペーンがあります。

総会は春の研修時、昼食前に開催、一年の方針を決めます。

今年度の春の研修は『秩父の歴史を訪ねて』と銘打って先ず秩父札所一番寺(四萬部寺)。ここからポランティアガイドさんと合流し、親切丁寧な案内をして頂きました。その後秩父神社、秩父地場産業センター、秩父まつり会館、日本のロケット打ち上げの先駆けとなる龍勢会館、併設の秩父事件の関係者(会計長を務めた井上伝蔵邸での状況研修。研修中思うのはその時代に則した人物が必ず出てくる。だからこそ歴史が変わるのか、今私達に少なからず影響を残しているのだと思う時、我々ほどのように行動するのか考えさせられます。

八月には市内の子供たちの出展による「子ども作品展」を開催しました。この事業は伊勢崎ユネスコの目玉事業であり多くの作品が寄せられます。図画は(私の町のたからもの)、と題して町内のお寺、神社、公園等想いのこもった絵が出展されます。習字、工作そして伊勢崎市と友好都市であるスプリングフィールド市、馬鞍山市の子供たちからも作品が寄せられました。総数六百三十余の作品は子供たちが感じ、思いのこもった作品です。



帰路のバスの中で、一日の感想を聞くという感想が多く出てきました。この研修により生徒の視野も広がり、新たな目標が見つかり、また、無事に終了する事が出来、スタッフ一同安堵しました。

今日の体験が、参加した生徒たちにとってさらなる成長につながる祈念しております。



あらためてエールを送ります。秋の研修は栃木市「蔵の町」の見学でした。見学コースの距離は歩くのに丁度よい距離です。先ず塚田歴史伝説館、栃木郷土参考館、とちぎ蔵の街美術館、とちぎ蔵の街観光館と観光範囲が縮図の様にある都市はそう多くはないと思います。帰りは佐野市にある佐野市郷土博物館に寄り、佐野市を中心とする地域の考古、歴史、民俗などに関する資料(特筆するのは足尾鋳毒事件に命を懸けた田中正造翁の資料)には感銘を改めて受けました。館長さんの説明も歯切れがよくユ一モアを交えての説明に引き込まれてしまいました。今回の研修でも感じるのは地方都市の街並みの整備が見学する側に配慮してある、生活に便利、綺麗に整っていて快適な空間が整っているのを体験すると次回からの研修も楽しみになります。

一月から二月末にかけて「書き損じはがき回収」キャンペーンを実施。昨年度は、はがき千四百枚余、未使用の切手を日本ユネスコ協会に送りました。微力ながら伊勢崎ユネスコ協会も各方面の協力を頂きながら活動を続けて行きたく皆様方のご支援宜しくお願い致します。

桐生ユネスコ協会

桐生ユネスコ協会の活動

会長 北川 紘一郎

桐生ユ協の今年度の事業方針は、「各事業の見直し」「会員増強」「桐生市文化祭への参加」「哲学の道整備事業」「組織改編充実」が主な事業として立案承認されて活動してきたところであります。しかし、設立以来の「桐生型ユネスコ精神」が浸透してきて、活動に制限のあるところがネックとなっておりつます。つまり、当初の「純民間ユネスコ」にこだわること、「行政に頼らない」「政治に流されない」などがあり、「知識人のサロン」的雰囲気もあり、市民からは敷居の高いところがありました。従って、会員の増強と言ってもちよつと二の足を踏む市民が多く、この改革には数十年かけて歴代役員が奔走しましたが、イメージの払拭には至らず今日に至っております。加えて、桐生市の基幹産業の衰退と人口減と高齢化による影響も避けられませんが、太田ユ協や高崎ユ協あるいは他のユ協に見られるごとく、行政との連携による事務局のサポートや教職関係の参加、市民理解などが有効に機能しているところを参考に進めてきましたが、思うように進んでおりません。会員も三十人を切りました。

富岡のユネスコ世界遺産登録の経過時点でも、桐生発の「全国近代化遺産総合調査」がきっかけとも言われ「養蚕」

「製糸」「織物」「流通」をコンセプトに掲げ、桐生も同じ土俵で論議されると期待されたところでありましたが、重大な桐生事情が足を引っ張って登録から落とされた経緯があります。そのため、桐生ユ協ではその時を機に大飛躍するはずでしたがこれも叶わず現状維持が精一杯というところではあります。

さて、泣き言ばかりでは先に進みません。次の手も考えております。それは桐生や日本の発展に欠かせない未来計画としてのユネスコ世界遺産への新たな挑戦です。「日本絹遺産群」構想は日本全国の絹に係わる産都市群を横軸でまとめ、日本の歴史的な重大な顕彰事業となります。この主軸が「皇居の紅葉山御養蚕所」「西の西陣」「東の桐生」青森から与那国島まで、となります。あくまで構想ですが、日本国が自ら先進国になった原点の産業の顕彰事業で、現在までこれが国によって行われておらず、歴史上欠落しております。日本国は日本の骨格であったこの顕彰事業をユネスコ世界遺産として実践すべきであるとして「桐生ユ協」と「桐生世界遺産の会」が進捗のための啓蒙を進めております。

衰退した「桐生ユ協」ですが、抜本的な打開策を模索しながら何かをバネに復活しようと肅々とがんばっております。新たな「組織改革」もその一つとして実践していくつもりです。県内各ユ協のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

太田ユネスコ協会

太田ユ協のドン引退

当太田ユネスコ協会は、今年度当初に関口会長が引退表明され、後任の会長には、前会長の秘蔵っ子であった中村利光氏が就任され、新船長さんの下に新しい太田ユネスコ協会の船出となりました。

関口前会長さんは、会員皆様にはご案内のとおり、学校長から太田ユ協の会員となられて以来、長きにわたりユネスコ精神の普及に努められた方であり、各役員をはじめ理事・会員各位からも絶大な信頼を得ておられたわれらの大先輩でした。先日の理事会に、ひよっこり姿をお見せになり、皆さんから大歓迎を受け、とても爽やかな笑顔を振りまかれておられました。

これからお元気で世界中のハム仲間との交信会話を積極的に取り入れ、若々しくお過ごしになれることを、皆さんで応援したいものと思っております。

地域活動にも積極参加

毎年暮れのシーズンになると「国際ふれあいパーティー」の話題が聞こえ始めます。これは太田市国際交流協会が主催するものですが、交流協会はユネスコとは深い友好関係にあったことからいち早くその会員となり、相互に助け合ってきたところではあります。このふれあいパーティーは、太田市及びその近郊に住まわられて

る外国の方との交流の場として行われてきたものです。参加者は、企業研修生・留学生・英語教師（ALT）それに日本人の方々であり、国籍もたくさんの方達です。国際友好・異文化の交流発見には限りがないといって過言ではありません。二十八年度のこのパーティーは十二月四日（日）太田市内の結婚式場で開催されました。受付開始の午後六時前から、民族衣装に着飾った東南アジア系の美形美女で混雑しました。どの顔も晴れやかでパーティーを楽しむような雰囲気です。これほど多くの人が参加してくださることは、国際交流協会会員による実行委員会方式での企画に参加している一員として、これに携わった人だけが味わえる大きな達成感を感じているところです。

乾杯の後は、飲食を楽しみながらの懇談が続ぎ、会場内は和やかにして画期的な雰囲気に変わる頃、各国の御自慢のショーが展開され、場内は最高潮となります。そんな中で、楽しみの一つを紹介したいと思えます。パーティー参加者は、必ず名札を付けます。この名札には仕掛けがあり、小さなワンポイントの絵が印刷されています。自分の名札の絵と同じ絵の名札をつけている人を探し出し「こんばんは」「nice to meet you」から始まる出会になるというわけです。しかも二人で担当者場所に行けば楽しい賞品が頂けるといった具合です。

来年のパーティーには是非顔を出しては如何でしょうか。

高崎ユネスコ協会

事務局長 岡 部 幹 夫

高崎ユネスコ協会は、昭和四十四年十一月に創設され、平成三十年には創立五十周年を迎えます。現在、草創期の役員や会員、これまで本協会を導いてこられた諸先輩たちの活動を引継ぎ、「つなげよう・深めよう・広げよう ユネスコの心」をスローガンに、地域に根ざす活動の継続と発展を図ることを目指して活動しています。平成二十八年度会員数は三四四名（一般会員三一〇、賛助会員二〇、団体一四）となっています。

本協会は、以下の事業を実施しています。

- ① スプリングフェスティバル (四月)
 - ② ユネスコ青少年キャンプ (八月)
 - ③ 国際理解バス (八月)
 - ④ ユネスコ児童画展 (十月)
 - ⑤ 子どもの幸せを考える研究集会 (十一月)
 - ⑥ ユネスコ作文集の刊行 (二月)
 - ⑦ 児童画・作文入賞者表彰式 (二月)
 - ⑧ 世界寺子屋運動、コ・アクション募金書き損じはがきキャンペーン (通年)
 - ⑨ 世界遺産・地域遺産活動 (通年)
 - ⑩ ESD教育の推進 (通年)
 - ⑪ 広報「高崎ユネスコ」刊行 (年二回)
- 特に「ESD教育の推進」では、高崎市立六郷小学校をユネスコスクールの拠点校として位置づけ、持続可能な開発のための教育 (ESD) を推進し、加盟校増加に取り組んでいます。「世界遺産・地

域遺産活動」では、高崎市の上野三碑世界記憶遺産登録についての理解を深めるために、講演会や多胡碑等現地視察を行っています。また、「世界寺子屋運動」では、各種募金や書き損じハガキの回収等で昨年度四十万円を超える浄財が集まり、東日本大震災「日本ユネスコ協会就学支援奨学金」・熊本地震子ども支援募金に寄付いたしました。

高崎ユネスコ協会は、ユネスコ精神に則り、高崎市・高崎市教育委員会・学校・地域諸団体と密接に連携し、教育・科学・文化を通じて国際理解と国際協力、青少年健全育成を進め、世界平和に貢献し、あわせて地域社会の向上と会員相互の親睦に寄与していきたいと思えます。

最後になりましたが、本協会では平成二十七年よりホームページを開設しております。活動方針や活動内容をはじめ、行事の案内等々充実した仕様になっています。ぜひご覧ください。



青少年キャンプ

富岡ユネスコ協会

会長 矢野 英司

当ユ協のいくつかの事業活動を紹介いたします。

少年少女合唱団では、二年に一度国際協力や国際理解を進める行事として「国際理解バス」事業を行っています。今年富岡市とウズベキスタンとの交流が進んでいることから、小学四年生から高校三年生まで二十一人の団員にてウズベキスタン大使館を訪問させて頂きました。参加した子どもたちによると、ウズベキスタンと日本との関わりがシルクロードの時代から関係があり、シルクロードでは最も重要な中心地がウズベキスタンであったことを知り、現在も経済面や産業面でたくさん

の関わりがあることを学び、大変貴重な体験ができた本場に良かったと皆感想を述べていました。

また、一〇月二八日(金)の群馬県民の日に合わせて、世界遺産スタディツアーIN日光を企画致しました。わがまちには世界遺産の富岡製糸場が存在しています。もちろん地元の子どもたちは訪れる機会もあるし学習教材にもなっています。当ユ協も過去に富岡製糸場および関連施設でのスタディツアーを何度か実施してきました。今回は、少し視点をかえて、近県にある世界遺産を通してユネスコの世界遺産活動を知るとともに、実際に世界文化遺産である日光の寺社をめぐりその価値を学ぶとともに、「人類共通の遺産」という世界遺産条約の基本的な考え方を理解することを目的といたしました。

ツアーの募集は、県民の日ということもあり定員をはるかに超える応募をいただきました。この事だけでも当ユ協の活動を地域の方々に知ってもらえる良い機会になったと思います。

当日は、道中のバスの中で富岡製糸場や世界遺産に関するクイズを実施して、楽しみながら学ぶとともにツアーの目的をくみ取ってもらえるように配慮いたしました。天候には恵まれず、日光東照宮では陽明門が改修工事中で見ることができなかったが、眠り猫や神厩舎の三猿などは子どもたちの興味をひいていました。最近では、日光への修学旅行の機会もないようなので子どもたちにはとても良い機会になったようです。

様々な反省点もあったので、これから生かしながら世界遺産運動の意義を様々な形で学べる機会を今後とも考えていきたいと思います。



沼田ユネスコ協会

沼田ユネスコ協会の活動

事務局長 大島 俊 夫

今年も例年の通り、沼田ユネスコ協会ではユネスコ青少年少女合唱団支援・世界寺子屋運動として書き損じハガキキャンペーン・平和の鐘をならそう・国際理解バスでJICA地球広場訪問・研修視察などの事業を行っています。

国際理解バスは「国際協力機構(JICA)地球ひろば」を見学し、展示物などを通して世界の諸問題の現状を知るとともに、日本の国際協力についてJICA職員や青年海外協力隊の体験談を聴き、視野の広い国際社会人になる一助とすることを目的に、毎年実施しています。

今年市内六つの中学校から一五人の中学生と利根実高から四人の生徒が参加し、沼ユ協役員八名が引率し、八月一日に実施しました。

東京市ヶ谷のJICA地球広場に到着くと、地球案内人「体育の教師としてケニア共和国で国際協力活動をしてきた村上さん」の出迎えを受け、まず、体験ゾー



ンで発展途上国の教育の現状と問題点について見学、体験学習しました。

「女性は教育が受けられない。学校に通えない。教室が狭く教材が少ない。ノートや教科書がない。兵士として従軍する子どもも多い。難民が増えている。」など、教育環境が日本と想像以上に違い、生徒達も強い衝撃を受けたようです。

しかし、そういう中でも政府開発援助(ODA)の技術援助や資金援助を受けながら、発展途上国の子どもたちが元気に力強く学び、生きていく姿を見て、勇気づけられ、国際協力に意欲を持つ生徒も多かったですように思います。

特に、村上さんのケニアでの体験談は興味深いものでした。最初は差別的な言葉で呼ばれたり、スワヒリ語がよくわからず生活習慣が大きく異なるので大変苦労したようですが、まず生徒の名前を覚え、名前を呼びながら語りかけたり、スポーツを通して一緒に体を動かしたりする中で、次第に心と心が通じ合い、協力して物事を成し遂げるすばらしい体験をしたそうです。

これは、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」というユネスコ憲章の精神を体現したもので、国際理解バスに参加した生徒達の心にも、強く残ったことと思います。

市当局のご理解もいただいております、今後も、国際理解バスは継続して実施していきたい事業です。

館林ユネスコ協会

ユネスコサマースクールを実施して

当協会では、ユネスコについて一人でも多くの人に知ってもらうために、市内の小学生及び中学生を対象に、毎年七月に、国際理解バスを「ユネスコサマースクール」と題し、実施しています。今年度は七月二十二日(金)に群馬県下仁田町にて、参加者・会員事務局合わせ四十三名で研修しました。

ユネスコの基本理念を伝えるとともに、下仁田の自然を視察することによって、子どもたちの環境意識を高め、視野の広い国際的社会人としての資質向上を図ることを趣旨としております。



研修の内容ですが、午前中は青岩公園にて四グループに分かれ、自然学校の先生方より、鐫川の河原にある石について解説していただきました。石を採取し、子どもたちは図鑑を見て話し合いながら、どの石に当てはまるか分類をしました。子どもたちの意見を聞くこと、

この「石あつめ」が印象に残った子が多いようでした。午後は自然史学校で研修しました。先生方のご指導のもと、ジオパークに認定されている下仁田町の広大な自然を散策し、大変有意義な研修が出来ました。

研修後子どもたちを対象に行つたアンケートでは、七割を超える参加者から「おもしろかった」との回答が得られました。一方で、学年が低くなるにつれ、「ふつう」「つまらなかつた」との回答が多く見られたことから、学年や難易度を考慮した研修を行うっていく必要があるとの課題も出ました。



当ユネスコ協会では、子どもたちに、様々な体験をすることが出来るよう、来年度もより実りのある事業を計画・実施していきたいと考えております。

安中碓氷ユネスコ協会

会長 矢野 薫

当協会では毎年、一、ユネスコ座談会。二、国際交流の集い。三、年間を通じてのユネスコ英会話教室。四、ユネスコスクールの普及活動。五、ユネスコ子どもキャンプへの各学校に対しての参加要請などを実施しています。

ユネスコ座談会では、今年も昨年引き続き、市内の六中学校からたくさんの生徒が参加して行われました。テーマを「カンボジアの現状と子どもたち」としてNPO法人カンボジアフレンド協会の理事長の方に講師をお願いいたしました。カンボジアの国内紛争によって起きてしまった悲惨な状況について、映像を見ながら、危険と隣り合わせの地雷処理の仕事についての説明などがあり、参加者全員が世界平和の誓いを胸に座談会が終了しました。

国際交流の集いでは、市内中学校・高校八校の生徒と、安中市在住の十八名の外国人の参加があり、大会議室が満員になる盛況でした。テーブルごとの歓談から、立食パーティーや挨拶ゲームなど、参加された皆さんとの一時半の交流を楽しみました。

この国際交流は、いろいろな国の人々と交流することで、お互いの文化の相違を理解し、心の中に平和の砦を築ききっかけになればと、二十四年前から始められた事業です。

英会話教室については、開設して今年で四十一年になります。幼稚園児、小・中学生を中心に、安中・松井田地区で六会場を使い、年間を通して週二十七クラス、のべ二百九十人が学んでいます。現在の指導者はオーストラリア人の三十四才の男性講師です。

ユネスコスクールについては、現在申請中の松井田北中学校が今年中に認定されると思います。さらに、今年は市内の二つの高校と小学校が認定申請すると思います。

また、以前より念願だったユネスコ子どもキャンプに、新島学園中学校三年の四人の生徒さんが、八月に千葉県旭市で開かれた「ユネスコ子どもキャンプ」に参加し、その活動報告をユネスコ座談会で発表していただきました。四人はドイツや台湾からの参加者と英語で会話したことや、英語が話せない子どもとも、絵を描くなどして交流できたことを話していました。三泊四日のテント生活で、最年長者として各班のまとめ役を受け持ったと、目を輝かせて話していました。

今年も、安中碓氷ユネスコ協会では、これらの活動を通して地域に根ざした運動をしていきたいと思っております。なお一層のご支援ご協力をいただければ幸いです。

藤岡地方ユネスコ協会

「創立四〇周年を迎える準備」

事務局長 岸 正博

一九七七年七月一六日に「藤岡多野ユネスコ協会」として発足。当時、藤岡女子高校の田島校長が、藤岡市でもユネスコ協会を設立したらどうかと、教育委員会に提案しました。そこで教育委員長だった温井一衛氏が設立準備委員長となつて、ユネスコ協会を創立し、藤岡市と四町二村の広域にわたる地域にユネスコの灯が掲げられました。

本年二〇一六年度は、役員・理事の改選を行い、四月に新しいスタッフを加え、四〇周年を迎える年としてスタートした。早々に、温井初代会長の訃報が届きました。当時、ユネスコの理解は不十分で、ユネスコ協会は他の団体と異なり、法律にもその活動を援助するように定められていることなどを教育委員会に特に説明いたしました。・設立当初はどのような運営をし、どのような事業を行うかなど、五里霧中でしたが、要は、ユネスコ精神の理解・普及を進めるのが本筋として運営をいたしました」と温井会長は三〇周年記念誌に「設立当時の思い出」として述べています。

四〇年の節目を迎えるに当たり、協会設立当時の思いを共有し、国際平和と持続可能な社会づくりのための人材育成に勤む覚悟を新たにしたい次第です。

本年度は、会員の拡大にも取り組み、

市内の伝統ある和菓子店「三和屋」さんにユネスコ活動の賛同を得、応援をいただく他、現在、校長会、教頭会に続いて、市P連を通して各PTAに加盟・協力をお願いしているところです。また、美九里東小学校がESDパスポートを導入し、ユネスコスクールとしての実践に新たな展開を見せています。

ユネスコスクールについては、加盟・認定事務に数年もかかるなど、困難な状況であるが、国内の活動に関しては、加盟申請校として同等に活動できる旨を事務局から連絡をいただいています。本市では、小野小学校、西中学校、藤岡第一小学校が認定待ちであり、申請書は昨年に文科省からパリのユネスコ本部に送付済みです。当協会創立四〇周年の年には、市内小・中学校十六校中、十五校がユネスコスクール認定となる見通しです。

次期学習指導要領のキーワードに「地域に開かれた教育課程」があります。よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創るといふ目標を地域・学校が共有し、互いに連携・協働しながら、持続可能な社会づくりを目指すこととなります。

二〇一七年から二〇二六年に向けては、私たち民間ユネスコ運動七〇周年のビジョン「広げよう平和の心」、ミッションとして「平和な世界の実現」「持続可能な社会の実現のための教育の実践」を掲げています。地域で志を同じくする人々や団体との連携を進め、協会設立当初の思いを再確認し、四〇周年の記念の年を迎えたいと思います。



中之条ユネスコ協会

中之条ユネスコ協会視察研修

二〇一四年十一月に「和紙・日本の手漉(てすき)和紙技術」について、細川紙(埼玉県)、本美濃紙(岐阜県)、石州半紙(島根県)の三紙が、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。これらの和紙技術は「伝統的な知識や技能が世代を超えて受け継がれ、地域の一体感の醸成に寄与している」ことなどを評価されたものです。

細川紙とは、埼玉県のほぼ中央部、秩父郡東秩父村と比企郡小川町で傳承されている楮(こうぞ)を原料とした伝統的な手漉き和紙で、昭和五十三年には国の重要無形文化財にも指定されています。この地域の手漉き和紙の歴史は、正倉院文書に記録が見られることから一二〇〇年以上の歴史があるものと考えられます。その後、中世における状況は明らかではありませんが、江戸時代になってからは和紙に関する資料が見つかっていきます。当時は、「大河原紙」「小川紙」と呼ばれており、「細川紙」の名称が登場するのは江戸中期となります。「細川」という地名が地元にあるわけではなく、紀州・高野山麓の細川村(現在の和歌山県高野町)で漉かれていた丈夫な和紙を受け入れ、「細川」という名で消費地である江戸に向け生産を始め、「細川紙」の名が広まり、また和紙の一大産地としても発展しました。現在では、東秩父村にある「和紙の

里」、小川町にある「埼玉伝統工芸会館」で、和紙職人が実際に手漉きで多種多様な和紙の制作をしており、その様子は来訪者も垣間見ることが出来ます。また体験コーナーも併設されており、手漉き体験を含め伝統技術に触れることが出来る施設となっています。

今回の視察研修では、「細川紙」に係る伝統技術の一端に触れ、歴史・背景を知ることが目的として行いました。和紙の里にて、DVDによる予備学習、その後職人さんより原料である楮がどのようにして加工されていくか工程毎に現物を手にわかりやすい説明が行われ、その後実際に「溜漉き」という方法での手漉きを行いました。

和紙は人の手で丹精込めて一枚一枚手間をかけて漉かれます。紙には漉き手の心と共に継承されてきた悠久の時間が美しさとして宿っています。和紙の魅力が日本のみならず、世界へも広く伝わって愛される存在になってほしいと願います。そのためにも、まずは私たち日本人がその良さを知って、伝えていく必要があると感じました。



大泉ユネスコ協会

大泉ユネスコ協会では、四月の定期総会で年次事業がスタートします。

当協会は、組織上、本部役員と三つの専門委員会(広報企画専門委員会、国際理解専門委員会、ふれあい専門委員会)で構成されており、五月に合同会議を開催し、年度事業の計画を行い、実質的スタートを切ります。

六月には「民間ユネスコ運動の日」と題して、記念講演を開催しております。

八月には国際理解バス研修会を開催しております。これは中学生を引率し、筑波の国際センター及び宇宙センターを見学し、外国の研修員との交流と宇宙の間を学ぶものです。大泉には中学校が三校あり、各校一〇名ずつ、引率役員含め四五名前後の事業です。

九月に入りますと、会員研修旅行と題して、主に会員にて研修旅行を行います。

一〇月には高校生意見発表会を行っております。これは、大泉高校と西邑葉高校の生徒六名が中学校の生徒を対象に先輩としての意見を発表する場です。中学の生徒は先輩の意見を聞き、将来の人生設計の参考となる機会を得ることが出来ます。大泉には先にも申しましたが中学校が三校あり、会場を持ち回りで行っているため、中学生は在校中、一度は聴講することとなります。発表終了後、余興として西邑葉高校の吹奏楽部の演奏を聴いております。



十一月には世代間交流意見発表会を行っております。これは中学生、高校生、成人、高齢者、外国人と世代を超えた方々に意見を発表していただく場です。毎年、貴重な発表が聞け、大きな事業と自負しますが、聴講者は大泉町住人のため、毎年集客に、苦慮しております。

年末には、書き損じハガキキャンペーンを行っております。毎年十萬円弱の協力を得ています。

次に隔年での事業として私が撮った世界遺産写真展を行っております。会場は大泉町文化むらにて、世界遺産の写真と並べ、町民に自由に見て頂くものです。

それと大泉ユネスコ協会だよりという機関誌を年二回発行しております。役員会議は適時、行っております。大泉ユネスコ協会会員は特別会員含め二百人弱と群馬県の単位ユ協の中でも多いほうですが、毎年会員数が減少しており、会員確保が課題となっております。

県ユネスコ研修視察

県ユネスコ連絡協議会 石田 宇平

県ユネスコ連絡協議会の事業の一つ「ユネスコ研修視察」が、その主管である高崎ユネスコ協会によって、十月五日、高崎市吉井公民館・多胡碑記念館において実施されました。

午前部では、開会行事に続き、上野三碑世界記憶遺産登録推進協議会(元NHK解説委員、元高崎経済大学教授)上野三碑顕彰会長・横島庄治氏による「文化が都市を刺激する」講演を拝聴することができました。

午後部では、多胡碑記念館学芸員が館内案内と多胡碑、高崎市文化財保護課の学芸員が郡正倉跡の解説をそれぞれ行い、今までにない感銘を受けました。

上野三碑は、高崎市南部地域に所在する飛鳥・奈良時代に造立された三つの石碑(多胡碑・山上碑・金井沢碑)の総称で、それぞれの碑文からは、千三百年前頃の地方行政制度のあり方や古代豪族の婚姻や氏族とのつながり、仏教思想の広



がりなどが明らかになり、古代東国史一級史料と評価されているユネスコ記憶遺産の国内候補であることが認知できました。

これも、高崎ユネスコ協会の懇切丁寧な一次案、二次案、当日の資料に助けられての研修視察。参加者六十余名を代表して「ありがとうございます」とうございました。



関ブロユネスコ 活動研究会報告

県ユネスコ連絡協議会 下田 一成

「今日の世界を考え、明日の平和を語り合おう。」のテーマで、去る九月三日、青山学院大学で三三七名(群馬六〇名)参加による研究会が開かれました。

オープニングイベント並びに開会式の内容は省き、茂木健一郎氏による講演、その後、日本ユネスコ国内委員会委員、高尾初江氏からの報告がありました。

分科会は五分科会(戦争と平和について)、「世界寺子屋運動と国際交流・支援」、「世界遺産・未来遺産」、「青少年問題と次

世代育成)「ユネスコスクールとESDパスポート」です。各分科会の実践発表は、1「千葉県ユネスコスクールの活動」、2「新宿区立西外山小学校ユネスコスクール実践報告」、3「太田ユネスコ英語キャンパス若手担い手の組織化とその課題」、4「子どもたちの暗唱を楽しむ会」言葉と心を声にのせて、5「世界に誇れる我が町の伝統文化『天明鋳物』」、6「世界遺産・地域遺産から学ぶ平和の尊さ・自然への畏れ・人間の知恵」、7「スタディツアーでめぐる世界遺産、そこから見えるもの」、8「世界遺産の意義とは」、9「平和の鐘とネパールなどの学校支援について」、10「ポーランドと広島スタディツアーで考えたこと」、11「日本語教室委員会活動について」、11「スタディツアーの勧め」でした。

夜の部は、各国の民族楽器を奏でる音楽の世界旅行を贈る「ジプシーポット」のお二人の演奏を楽しみながらの交流会でした。

翌日は代表者会議と実務担当者セミナーを午前中に済ませて無事終了しました。




平成28年度 国際理解バスの実施状況

期 日	場 所	参加人数	ユ協名
7月22日(金)	サマースクール(下仁田町)	43名	館林ユ協
8月 3日(水)	JICA筑波、JAXA筑波	43名	大泉ユ協
8月10日(水)	JICA筑波	39名	藤岡地方ユ協
8月10日(水)	東京JICA	27名	沼田ユ協
8月19日(金)	東京JICA EU大使館	34名	前橋ユ協
8月25日(木)	東京JICA、チェコ共和国大使館	35名	高崎ユ協
8月22日(月)	ウズベキスタン大使館	31名	富岡ユ協
8月23日(火)	多胡碑記念館 富岡製糸場	31名	太田ユ協

熊本地震災義援金へのご協力 ありがとうございます

今年度、熊本地震子ども支援ということで、県ユネスコ連絡協議会が取りまとめた支援金は、総額九十五万九千四百七十五円で、熊本に送金しました。そのほか、独自で募金をされたユネスコ協会もあります。ご協力ありがとうございました。

<p>太田ユネスコ協会</p> <p>会長 中村 利光 副会長 山岡 之孝 山田 邦夫 金谷 光明 馬場 敏生 塚越 貴之 津布子寿夫 磯崎 一博 事務局長 若田部茂子 広報担当 佐藤 和久</p>	<p>桐生ユネスコ協会</p> <p>会長兼事務局長 北川紘一郎 副会長 前原 勝良 下山 進平 柳 光雄 会 計 柿沼 直子</p>	<p>群馬県ユネスコ 連絡協議会</p> <p>会長 小林 照夫 副会長 阿久澤和夫 樋口 克己 北川紘一郎 岸 正博 事務局長 下田 一成 他役員・理事一同</p>	<p>二〇一七年 あけまして おめでとらございませす 新年賀詞ご芳名掲載</p> 
--	--	--	--

<p>富岡ユネスコ協会</p> <p>会長 矢野 英司 副会長 堀越 英雄 宮崎美由紀 神道 良則 齋藤 勝也 事務局長 島崎 佳彦</p>	<p>高崎ユネスコ協会</p> <p>会長 樋口 克己 副会長 相原 裕 串田 昭光 上田 一美 岩井 聖子 豊泉 君代 岡部 幹夫 事務局長 岡部 幹夫</p>	<p>伊勢崎ユネスコ協会</p> <p>会長 設楽 孝吉 副会長 横澤 克明 齋藤 文江 坂田 勝美 副会長兼事務局長 矢内三四卯</p>	<p>前橋ユネスコ協会</p> <p>名誉会長 中村 宏 会長 阿久澤和夫 副会長 布施 満恵 須藤 英雄 高橋美恵子 福島 輝巳 副会長兼事務局長 矢島俊夫</p>
---	--	--	--

<p>藤岡地方ユネスコ協会</p> <p>会長 岸 正博 副会長 依田 治雄 新井 松江 平居 利朗 西澤 恭順 岩崎 哲 事務局長 木村 順子 事務局次長 木村 順子</p>	<p>安中碓氷ユネスコ協会</p> <p>会長 矢野 薫 副会長 矢野 篤 猿谷 憲 瀧田 和則 儘田 尚美 桜井 幹男 事務局長 桜井 幹男</p>	<p>館林ユネスコ協会</p> <p>会長 蛭間 享一 副会長 奥野 榮通 小林 博子 遠藤 和昭 小林 悟</p>	<p>沼田ユネスコ協会</p> <p>会長 小林 照夫 副会長 下田 一成 福田 公代 森田 経代 宇敷 和成 石田 宇平 矢島 照久 大島 俊夫 事務局長 大島 俊夫</p>
---	--	---	---

<p>中之条ユネスコ協会</p> <p>会長代行 齊藤 一雄 副会長 川越 節子 剣持 千秋</p> <p>大泉ユネスコ協会</p> <p>会長 関田 訓一 副会長 槻岡 則夫 清水 喜義 石井 克己 岩上 秀明 加藤 由典 松田 慎二</p>
--

||あとかぎ||

新会長による新年を迎えました。西
年ということで、果実が熟成した状態
を表す文字です。県ユ協は五〇周年を
迎えることとなり、半世紀を歩んでこ
れました。これも偏に各ユ協が地道に
歩み成果をあげてきたお陰と思ひます。
各ユ協のご協力により盛会裡に終われ
ることをご祈念いたします。
矢島 照久

**群馬県ユネスコ連絡協議
会加盟団体**

桐生ユ協、太田ユ協、前橋ユ協、
伊勢崎ユ協、高崎ユ協、富岡ユ協、
沼田ユ協、館林ユ協、安中碓氷ユ協、
藤岡地方ユ協、中之条ユ協、大泉ユ協、
国際ソロプチミスト

編集・発行

群馬県ユネスコ連絡協議会
発行責任者 小林 照夫
群馬県沼田市坊新田町一〇五三一三
電話 〇二七八―二四―八五三二